

モンゴル対外貿易の現状と、北東アジア諸国との連携

モンゴル国立大学経営学部商業プログラム長 N. オトゴンサイハン

(要旨)

本稿では、モンゴルと北東アジア諸国との商業貿易と各国向けの製品の現状に焦点を当て、同時に連携の方向性について明らかにする。

制限されたモンゴルの域内交易・貿易は、観光や羊毛・カシミアから鉱物・天然資源へと近年変わってきている。モンゴルは地政学的に有利な位置にあり、比較的破壊されていない環境があり、環境的なバランスを保っている。そのため、貿易・経済、インフラ・エネルギーに対する地域協力と、モンゴル参画の役割は、慎重に研究される必要がある。

世界貿易における北東アジア地域の役割は大きくなっており、この傾向は今後も続くものと思われる。しかし、域内貿易はロジスティクス上の問題からまだ限定的で、そのために輸送その他の費用が高額である。従って、自由貿易に関する合意を増やし、直面する困難を共同で解決することを求める声が高まっている。

[英語原稿をERINAにて翻訳]